様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １１ 日現在

機関番号：３２６８６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２９５２

研究課題名（和文）近世末イギリス消費文化とオークション：2つの役割の分析

研究課題名（英文）Auction and Consumer culture in early modern Britain: The analysis of two aspects in auction

研究代表者
大橋　里見（OHASHI, Satomi）

立教大学・グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター・特任准教授

研究者番号：４０５３５５９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：近世のオークションは、①品物の理解を、所有という形をとおして社会に示す場だった。これは、個々の品物がいかに生活に根差し、有機的に機能している（「文化」）かを示しつつ、その理解を深める機会だった。他方、オークションは、②所有品を売って借金を返済し、社会的信用を回復する方法でもあった。公けの場で展開したこの方法をとおして、社会的関係の修復や自己の名誉回復には、品物を所有することが有効機能するとの認識が共有された。つまりオークションの２つの役割には、経済発展が進む近世のブリテンで、品物を消費・所有することに社会的大きな意義があった事実が示されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
学術的意義：近世末ブリテンのオークションの役割（1. 消費が形成する生活様式、文化、趣味を社会に伝え、２．消費によって生じた借金の弁済を可能にする）は、品物が、人と社会と密接な関係をもち始めた経済発展期の社会の現実を反映しており、産業革命後の状況を経験していない社会に固有のものであったことを解明した点。
社会的意義：近世に固有の「品物・人・社会」の関係は、量産量販体制によってより多くの品物が存在するようになったことでむしろ、商品の存在価値やその認識を希薄化した近代社会が、人と品物の関係を有効なかたちで維持していくための社会的ヒントを歴史的観点から示した点。

研究成果の概要（英文）：British auctions in the eighteenth century played two roles. First, it revealed people’s understanding of the goods they possessed in their life to others. Advertisements explained the nature of each good, while auctions let people understand the meaning of goods in their lives, shaping culture on the acquisition of goods. The auction also provided contemporary people with the opportunity to repay their debts. As the economy grew, people became economically more active, pursuing different businesses, and indebted, losing their trust in society. At auctions, the debtors sold their possessions and gained money to repay debts; thus, they could retrieve their trust. Auctions were then the place where people learnt the meaning of goods and the importance of possessing goods to maintain social trust and their financial circumstances. Auctions suggest the essential roles of people’s possessions even before the Industrial Revolution.

研究分野：近世近代ヨーロッパ史

キーワード：オークション　消費社会　経済社会　流通　近世末ヨーロッパ社会　信用

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本と「寿司、天ぷら」、あるいは日本人とその「生真面目さ、勤勉さ」など、一般に、国や地域には、その顔ともいえる個性的「文化」があると考えられている。こうした文化的ステレオタイプは領域における実態を反映する場合も多い。しかし、イメージはデフォルメされていたり、「不正確」であったりもする。また、物事の理解、解釈、そして表象は時に応じて変わる。すなわち、表象のもともとの内容や意味は、失われ、時代の政治的社会的力に寄りそいつつ変形するのが普通なのである。問題は、こうした「文化」の不安定な表象と理解が、過去にいくどとなく、異なる文化の間の摩擦や誤解の種になってきたことである。そして今日、グローバル化の勢いが増すなかで、個々の「文化」を重要視する傾向がさらに強まり、誤解や倒錯した「伝統」「文化」の理解はむしろ加速し、コンフリクトのさらなる元凶になっているようにみえる点である。

他者（そして自己）に対する「誤解」に対して人文学研究はなにができるのか。こうした問いを念頭に、歴史研究にかかわる一人としてわたしは、かねてより、文化的ステレオタイプ、文化の誤解の問題は、歴史の正確な理解が不十分であることが大きな理由であると考えてきた。そして研究を進めるなかで、「文化」につながる特定の事物に歴史学的アプローチを加えることで、事物の本来の機能や存在理由を今一度探りなおし、文化に対する固定観念を切り崩し、わたしたちの歴史そして文化理解を「修正する」必要があるだろうと考えた。これが、本研究を構想した背景である。

歴史学的理解は、物事の本源を探るうえで優れた方法を提供する。そうした学問の本質にもとづき、歴史研究自体が、政治史偏重から社会史へ、また、一国史から「グローバル・ヒストリー」へと、常に有意義な変化を遂げてきた。その一方、過去の事物や事象を、歴史を研究する時点の感覚や考え方にそって理解してしまうという人間的性質を変更することは、なかなか難しい。こうした現状をふまえつつ、本研究では、西洋史研究においても盛んに議論されてきたテーマの一つである「産業革命の発生の背景」を、流通の側面から検討し直すことで、18 世紀という固有のコンテクストにおける、「消費」「商品・品物」そして、それらが交差する、社会の「実態」を解明することを試みた。そのうえで、「古物（アンティーク）」とそれを販売する方法としての「オークション」が、ブリテンという特定社会と密接につながった経緯を探った。

なお、本研究では、「ブリテン」と「オークション」という政治性の薄いテーマを扱ったが、上記のとおり、研究は、固定観念や偏見から生じる独りよがりの異文化理解に対する「正しい」理解を探求することを目指している。

２．研究の目的

オークションは、美術芸術品や「古物（アンティーク）」を販売する方法として知名度が高く、長い歴史をもち、古美術を愛好する人びとが多いと考えられているブリテンの社会そして文化と密接不可分と考えられている。

こうしたオークションとブリテンの関係は、17 世紀末以降、とりわけ 18、19 世紀前半期の経済発展期に生じた「オークション・ブーム」に始まった。オークションは、その投機的そしてゲーム的性質から多くの人びとを惹きつけ、当時高まっていた商品購買活動に拍車をかけ、ブリテン経済の活性化に貢献しつつ、ブリテン社会にはなくてはならない、固有の文化として根付くことに成功したとみなされてきた。

しかし歴史的に検討すると、オークションという手法自体は、文化であるというより、きわめて経済的に意義のある交換形式・方法であった。具体的には、産業革命を経験しておらず、本格的大量生産と大衆消費が出現する以前の時代に、「消費／所有->放出->再消費／所有->放出」という循環によって所有物を積極的に市場にもたらし、消費を促す方法であり、空間でもあった。市場で行われる公開の「競り（オークション）」には、消費者が他人の私的所有物の価値を吟味し討議する社交場という、消費者主体の市場形成期であった近世において、社会経済を活性化するうえでの重要な役割もあった。

本研究では、以上の固有歴史的意義をもつオークションの 2 つの面を明らかにすることを目指した。

①所有品の取引をとおして人々の生活様式や文化・趣味を社会に伝える役割

②消費社会の加速化にともなう借金の弁済方法として、所有物を運用させる役割。

そのうえで、この経済活動が深く編みこまれていた、イギリスの近世社会と文化を考察した。

３．研究の方法

（1）史料：

①➔ - ブリテンの公文書館（The National Archives）、図書館（British Library）、各地方文書館等が所有するオークション・カタログと、所持品を記録した「遺産目録」。
- 上記の文書館、図書館等が提供する、書籍のデータベースに掲載されたオークション・カタログ。
- 研究者がすでに所有していた、同上の史料も使用。

②➔ - 債務者にかかわる法律的文書（弁護士の記録、債務者裁判所および監獄の記録）、弁済目的で開催されたオークション・カタログ、記録。

- 地方地域内およびビジネス上の人間関係を示す書簡や記録等。

（2）分析：

①➔ - オークション商品の目録上の記載形式と遺産目録を比較検討し、両者の類似点の比較、有無を検討し、データ化。

②➔ - 「(1) 史料②」に記載した文書から、借金という社会的に負の結果がオークションを通し回復される（されない）ケースを検討。

- 地方地域に残された社会関係史料の記録から、地域コミュニティー内で重視された人間の「信用」に関する記述、および記述の状況分析。
- ビジネス関係者間に共有された「信用」に関する記述、および記述の状況分析。
- 以上の分析の相互比較。

４．研究成果

①：所有品の取引をとおして人々の生活様式や文化・趣味を社会に伝える役割

近世のオークションは、各種の品物の理解を、所有という形をとおして社会に示す公的な場だったこと、また、オークションは、個々の品物が具体的にいかに生活に根差し、生活の中において有機的に機能している（「文化」）かを示しつつ、それをオークション参加者に共有させ、理解をさらに深める機会だったことが、明らかになった。

そのうえで、研究では、オークションで獲得した品物の文化的理解が、人びとの、品物を通じた暮らしぶりを示す遺産目録に一定度反映されていたことを確認した。これらの結果から、本研究は、消費経済が拡大する時期に、人びとは、品物の理解を、他者の所有品の販売の場（オークション）をとおして理解し、その理解を、自身の生活にも反映させていた点を明らかにしたといえる。

②：消費社会の加速化にともなう借金の弁済方法として所有物を運用させる役割

近世の「掛け売り」には、経済活動を迅速化する意味と、「借金」による売買で人的関係を維持し、強化する意味とがあった。前者は、経済活動の活発化を促す効果があったが、経済活動が急速に活発化した 18 世紀には、この方法がいっそう使用され、「借金」による販売が横行した面があった。そして、生じた借金が過度の場合、むしろ人的関係の破綻につながることがあった。

そのような状況下にオークションは、所持品を販売することで弁済を可能にし、破綻した人的関係を修復する役割を果たすことがあった。時期にもよるが、研究では、オークションが、相互扶助関係が機能しやすい地域の密接なコミュニティーにおいてはとくに、債務者を救う方法でありえたことを明らかにした。また、社会的関係の修復や自己の名誉回復を可能にするオークションを開催する前提として、品物を所有することが有効であるとの認識を、公的に共有する場としてもこれが機能していたとの仮説が可能だと結論した。ただし、ビジネス関係者間の人的関係においては、オークションによる信用回復は必ずしも機能しなかった例もあった。これについては今後の検討課題である。

総論：

全体には、研究が想定したオークションの２つの役割には、経済発展が進む近世のブリテンという時代と空間において、品物を消費・所有するという行為に、当該時代に固有の社会的意義があった事実が示されているといってよいと結論できる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 3 件）

①大橋里見「(シンポジウム報告要旨）18 世紀ブリテンの消費社会と「モノ」認識：オークションをてがかりに」『化学史研究』vol. 46, no. 2, 2019, pp. 90-91(44-45).査読なし

②大橋里見「1788 年ロンドン・ジェネラル・ホールの設立ーブリテン木綿産業界の展望と産業利害をめぐる「地域の攻防」」『史苑』78 巻、1 号, 2018, pp. 53-76.査読あり
http://www.rikkyo.ne.jp/grp/shigakkai/index.html

③Satomi Ohashi, “The Consuming Culture in England in the Eighteenth Century and Public Auctions in the Local Community”, in Satomi Ohashi, Shinobu Majima, Hiroki Shin, Yusuke Tanaka ed., *History of Consumer Culture: Objects, Desire and Sociability* (23-25 March 2017, Gakushuin University, Conference Proceedings), Tokyo, 2018, pp. 80-85.査読なし

〔学会発表〕（計　1 件）

発表者：大野誠、真保晶子、松坂雅子、大橋里見：シンポジウム「イギリス産業革命と Arts：「新奢侈品テーゼ」の検討」2019 年度化学史研究会発表会（年会）2019 年 6 月 29、30 日（シンポジウム 6 月 29 日）報告予定

大橋の発表の題目：18 世紀ブリテンの消費社会と「もの」認識：オークションをてがかりに

〔図書〕（計　0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。